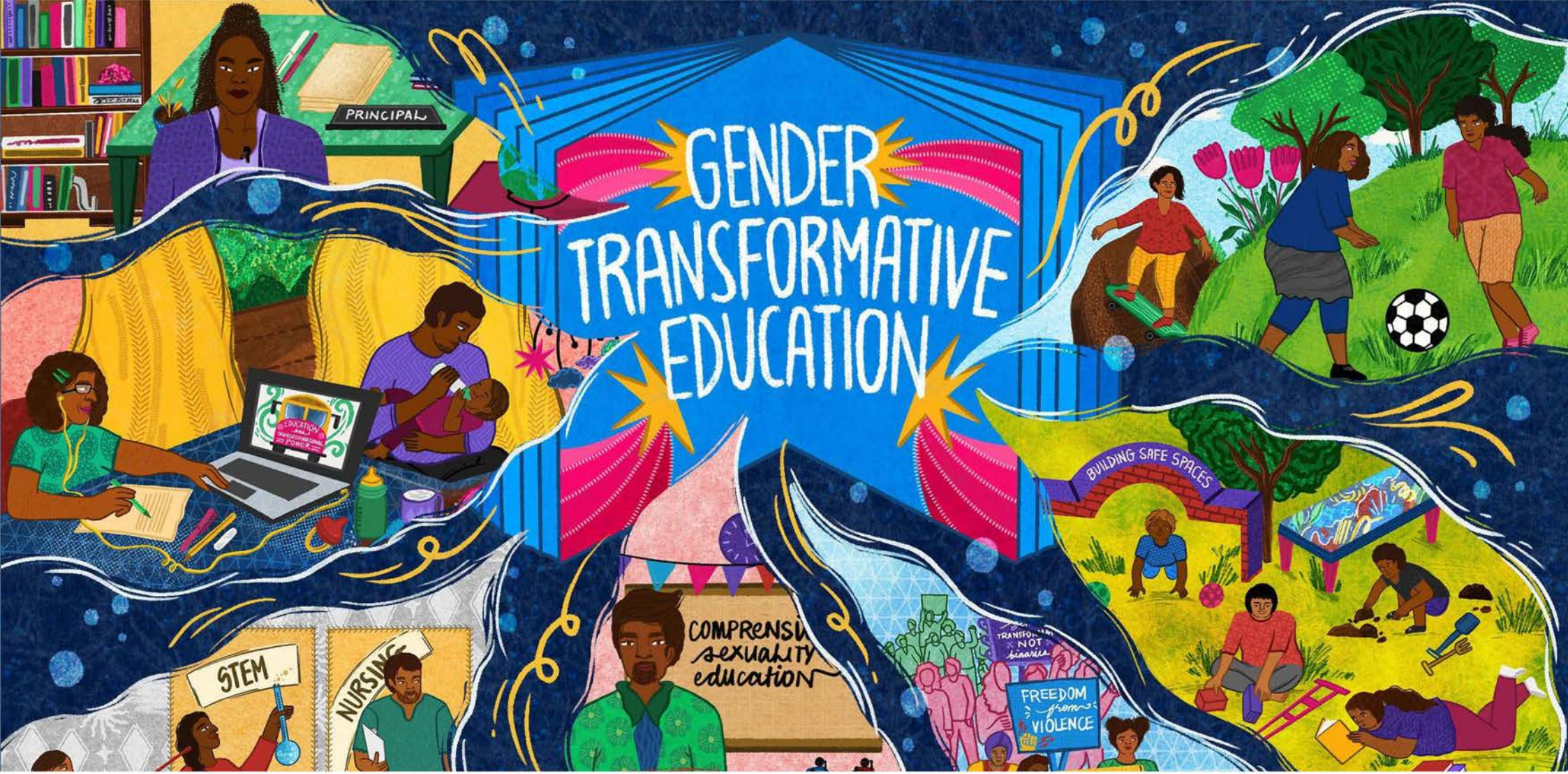


ジェンダー・トランスフォーマティブ教育

より公正で包摂的な世界にむけた教育の再構築

PLAN INTERNATIONAL

TRANSFORM EDUCATION hosted by UNGEI

UNGEI UNITED NATIONS GIRLS' EDUCATION INITIATIVE

unicef for every child 75

謝辞

本書の出版にあたっては、プラン・インターナショナル、Transform Education、UNGEI、UNICEFのお力添えを受けた。

また本書には、Olaoluwa Abagun, Sujata Bordoloi, Shiraz Chakera, Gloria Diamond, Antara Ganguli, Natasha Harris-Harb, Takudzwa Kanyangarar, Yona Nestelの専門知識と助言が生かされている。

本書は、テクニカルレファレンスグループの皆様から貴重なご意見を頂戴し、その結果、形にすることができた。特に、以下の方々に感謝申し上げたく思う。Helen Amdemikael Belachew, Nicole Bella, Rita Bissoonauth, Rosamund Ebdon, Erin Ganju, Tinotenda Hondo, Catherine Howgego, Madeleine kennedy-macfoy, Martha Muhwezi, Jenny Parkes, Lauren Rumble, Pauline Rose, Sagri Singh, Samyukta Subramanian, WonganiTaulo ならびに Nani Zulminarni。

また、世界中の草の根団体のユースリーダーたちからの情報にも感謝したい: Abel Koka, Adanna Ononiwu, Alinafe Malonje, Ashlee Burnett, Danqing Zhu, Dennis Glasgow, Elvita Trisnawati, Jona Turalde, Maryada Neupane, Maryjacob Okwuosa, Maya Onnel, Nafesha Richardson, Neelam Suwal, Pertulla Ezigha Ketcha, Pip Gardner, Riju Dakhal, そして Sushmita Neupane..。

編集: Matthew Gibbs、デザイン: Roberto C. Rossi、イラスト: Sonaksha Iyenga

発行:ユニセフ

教育事業部

プログラム部
3 United Nations Plaza
New York, NY 10017

www.un1cef.org/educat1on

© 国連児童基金(ユニセフ)

2021年12月

ISBN: 978-92-806-5320-5

Gender Transformative Education illustration: © Sonaksha Iyengar
https://sonaksha.com

用語集

ジェンダー平等達成のための公平な扱い: 女の子、男の子、女性、男性 、そしてジェンダー・マイノリティに対して公平なプロセスである。公平性を確保するためには、女の子、女性、ジェンダー・マイノリティの歴史的、社会的不利益を補償し、女の子、男の子、女性、男性、ジェンダー・マイノリティが平等な競争の場で活動するために、戦略と措置をよく利用できなければならない。公平は平等につながる[1]。

ジェンダー平等: ジェンダー平等には、女の子、男の子、女性、男性、ジェンダー・マイノリティが、社会的に価値のある財、機会、資源、報酬を平等に享受できることが必要だ[2]。それは、ジェンダーに関係なく、すべての人が社会で同じ地位を享受し、誰もが等しく人権を保障され、がコミュニティで他の人と同様の尊敬を受け、自分の人生について選択する同じ機会を得て、これらの選択の結果を形成する同じだけの 力を持つことを意味する[3]。

ジェンダー・アイデンティティ: ジェンダー・アイデンティティとは、個人が自分自身のジェンダーについてどのように感じているかを指す。個人は、女性、男性、またはそれ以外として認識することができ、そのジェンダー・アイデンティティは、出生時に割り当てられた性別と同じである場合とも限らない 。誰もがジェンダー・アイデンティティを持ち、ユニークで個人的な方法で自身のジェンダーを表現している[4]。

ジェンダー規範: ジェンダー規範とは、それぞれのジェンダー がどのように振る舞うべきかという、非公式で、深く定着し、広く保持されている期待やルールのことである。どの社会にも明確なジェンダー規範が存在するのは、ジェンダーそのものは固定されたものではないためだが、ジェンダー規範という概念の根底には、男の子と男性、女の子と女性の間、あるいはジェンダー・マイノリティに対する不平等な力関係や威信といった考え方があるからである。

ジェンダーの視点に立った教育: 女の子、男の子、女性、男性の異なるニーズを特定し、それに対応することで、平等な成果を促進する。ジェンダー 不平等を是正することを明示的に求めてはいない。

ジェンダーを考慮した配慮: ジェンダーの差異や不平等を認識しているが、必ずしもそれに対処していない。

交差性(インターセクショナリティ): 交差性とは、個人のアイデンティティは、年齢、経済的状況、階級、人種、民族、カースト、言語、移住や国内避難の状況、HIVの状況、障害、ジェンダー・アイデンティティ、性的指向などの複数の要因が交差し、優位さと劣位さを持ち合わせたもので、分離不可能である、ということの理解である[5]。

あらゆる多様性の中で:これは、性別、年齢、国籍、人種、民族、能力、性的指向、社会経済的地位、宗教的信念、政治的信念、その他のイデオロギーなどの個人の違いを認め、受け入れ、祝福し、個々の強みを見出すことを意味する。これはステークホルダーにとっては、多様性を尊重し、その積極的な表現を支援する方法を見出すことである。

ステレオタイプ: ステレオタイプとは、特定のタイプの人や物について広く持たれている、固定された考えやイメージのことである。

ホールスクールアプローチ: ホールスクールアプローチとは、生徒、職員、コミュニティの住民のために学校環境を改善することを目標とし、学校、コミュニティ、家庭の相互の結びつきを考慮した戦略のことである。

すべての子どもや
ユースが、

それが、ジェンダー
や性的指向に
関係なく、

そしてこれが 、
すべての子どもや
ユースが

ジェンダー/
気候/
社会的側面で、

現状に異議を唱え、ジェンダー平等 を支持するためのツールや、
知識、リソースを持っていることを想像してください。

すべての子どもたちの「学びの
障壁」を取り除くことに繋がった
ら と、想像してみてください。

自分の才能を開花させる助け
になるのなら、と想像してみてく
ださい。

子どもたちにとって今後世界が
どのようになるか、想像してみ
てください。

より公正な地球のために、子ど
もたちが形作るであろう未来を
想像してみてください。

はじめに

教育には大きな変革の力がある。
しかし、ジェンダー平等と公平性を達成し、すべての子どもたちに約束を果たすための教育システムの潜在力は、どの国でもまだ十分に生かされていないのが現状だ。

この四半世紀の間に、教育に関する世界中の教育におけるジェンダー平等については、大きな進歩があり、躍進している。1995年～2018年 の間に、教育におけるジェンダー平等の国の割合は、初等教育では56%から65%、中等教育では45%から51%、高等教育では13%から24%に上昇した[6]。しかし、平等は表面的な指標に過ぎないのだ。

ある国では、教科書が意図的にジェンダー規範を植え付け、女性が台所に立つ姿や女の子が水を頭に載せて 運ぶ姿、男性が会社や病院の医師として働く姿を描いている。

なぜ、若者に自身の可能性に挑戦することを妨げるようなことをするのだろうか。 なぜ、あらかじめ決められたジェンダー の規範に当てはまらないという理由で、その子が将来的に果たすかもしれない貢献を逃してしまうリスクを取る必要があるのだろうか。

すべての人は、包摂的で公平な質の高い教育を受ける権利を有する。だが、この権利は、差別的で恣意的である社会的に構築されたジェンダー規範によって 制限されている人もいるのだ。まず何より、私たちは人間である[i]。ジェンダーによって、その人がどのように扱われるか、またどのようなサービスを受けられるかが決められるべきではない。人々の人間性そのものが、社会的・経済的な投資はもちろん、尊敬と平等な扱いの保証されるべきだ。

世界中のあらゆる子どもたちが、質の高い学習を受けられるようにするために取り組むべきことが山積している。また、教育システムに浸透し、教育の機会を制限しているジェンダー規範に対処するために、さらに多くのことを行う必要がある。

女の子や女性は、女の子や女性であるという理由だけで、排除され、差別されているのだ。

経済的に困窮している家庭での男の子・男性 教育の優先、家事責任の不平等な負担、強制された早過ぎる結婚、早期妊娠や早産、女の子を対象とした衛生設備の欠如[7]を含む安全でない学習環境や、教育現場やその周辺でのジェンダーに基づく暴力のリスクなど、女の子と女性は、多くの理由で教育システム内で疎外されている。紛争は脆弱性を悪化させる[8]：10代の妊娠は緊急時に65%も増加する可能性があり[9]、世界の学校に通っていない女の子の約54%が危機の影響を受けている国に暮らしている[10]。

男の子や男性もジェンダー規範の影響を受け、有害な男らしさの規範によって制限される。男の子は思春期の早い段階で、稼ぎ手 になったり、武装集団に参加することを求められ始めるかもしれない。あるいは社会規範に 従い、学校を中途退学し、女の子に対して暴力を振るようになるかもしれない[11]。

家父長的な支配を打破する方法を見つけることは、女の子同様、男の子にとっても非常に 有益なことである[i]。したがって 、ポジティブなジェンダー規範の教示・学習の際に、男の子を置き去りにしたら、問題はより深刻化してしまうのだ[i]。

ジェンダー規範は、子どもやユースが規範のなかでどのように成長し、振舞い、どのように自分自身の価値を見出すかといった固定観念の形成を強化する。

従来のジェンダーや性的指向の規範の枠内で自らを認識できない子どもやユースは、

調査によると、ジェンダー不平等は、学校内の言葉や物理的な空間にも散見される。例えば、男の子は教師容認のなか、遊び場を仕切る傾向があるそうだ。女の子やLGBTQIの子どもたちは、このような場で苦労することがある。
彼女ら・彼らは、遊びやスポーツに参加したり、リーダーシップを発揮したりすることなく、脇役である ことが多い[12]。

社会に適合する難しさに直面し、ときには苦痛を伴うことになる。ジェンダー規範と力関係は、子どもやユースが、しばしば伝統的なジェンダー規範に当てはまらない独自の才能、能力、好みを探求する機会を奪っている。

さらに、差別の形態はしばしば交差している何らかの 不平等を経験するほとんどの人は、貧困、階級、人種、民族、カースト、言語、移住や国内避難の状況、**HIV**の状況、障害、ジェンダー・アイデンティティ、性的指向といった多方面からの不公平や排除をも経験しているのだ。この交差性は、不公正さを強め、脆弱性を増幅させる[13]。

子どもを産んだ思春期の女の子は学校に行けないが、父親である思春期の男の子は教育を続けることが許される国もある[14]

疎外と差別、そしてそれらが生み出す排除と脆弱性は、対策を講じなければ世代間サイクルで継続する。
実際、**教育方法への変革に力を注がなければ、状況が改善したとしても、簡単に元に戻ってしまう。** COVID-19の危機が示したように、進歩は簡単に水の泡 になるのである。また、気候変動の脅威が迫ってきており、教育の場も含め、あらゆる場所で不平等が悪化する恐れがある。

ジェンダー規範は、社会のあらゆる面に根付いているため、その対応は非常に困難である。実際、教育システムそのものが、有害なジェンダー規範や力関係を教育方法、カリキュラム、教科書に反映し続けていることがある。

しかし、**教育が持つ可能性は否定できない。**子どもやユースに最も重要な影響を与えるものの一つは、教育である。 家庭の外では、社会の中心が学校であり、ユースがロールモデルに接する場でもある。子どもたちはそこで、世界や自分の興味、能力について学ぶのだ。

子どもたちだけでなく、親や地域社会、国家のために、教育は、既存の規範を強化することも、それに挑戦し変革することもできるのである。結局のところ、子どもたちは学校が終わると家に帰り、家庭内で学んだことを話すのだ。

子どもの 潜在能力を引き出すためには、教育システムを「**ジェンダー・トランスフォーマティブ教育**」にする必要があり、そのためには、ジェンダー・アイデンティティやジェンダーの表現 が形成され始める幼児期から始める必要がある。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とは、包摂的で公平な質の高い教育（SDG4、特に目標4.7）と、多様なる 子ども、ユースのためのジェンダー正義の環境を育む（SDG5、特に目標5.1）ことである。ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、教育への障壁を取り除き、ジェンダーに基づく暴力や早過ぎる結婚の予防、労働市場への女性の参加の増加、ジェンダー平等の促進、意思決定時における女の子や女性のリーダーシップといった重要な社会変革に向けた進展を後押しするものである。ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、あらゆる子どもたちやユース、そして地域社会や経済にとって意味のあるものだ。

高、中、低所得国のセクシュアリティとHIVの教育プログラムを調査した結果、ジェンダーや権力を取り上げたプログラムは、そうでないものに比べて5倍も効果があることが判明した。
そしてそのうち80%は、性感染症や意図しない妊娠の割合がかなり低いという結果であった[17]。

女の子を男の子と同等に教育することで、途上国に年間少なくとも1,120億ドルの利益をもたらすことができ[15]、これと同様に、ジェンダー平等を進めることで、世界の成長に12兆ドル貢献することができる[16]。

つまり、教育において、また教育を通じてジェンダー平等を優先させることは、社会を変革し、ジェンダー公正、気候的公正、経済的公正、社会的公正をもたらす可能性があるのだ。

教育界による現在のジェンダー平等への取り組みは、私たちを前進させてくれた。**ジェンダーに考慮した教育**は 、ジェンダー間に存在する差異を認めるものである。**ジェンダーの視点に立った教育**は、さらに一歩進んで、不平等に対処し、有害なジェンダー規範や慣習を減らす方法を積極的に模索する。どちらのアプローチも教育には欠かせないツールだが、既存の教育システムの中で機能するものであり、対処療法的なものである。多様なあらゆる子どもとユースの機会の改善をもたらすためには、ジェンダー規範と力関係に変革をもたらさなければならない。**ジェンダー・トランスフォーマティブ教育**は、不平等を除去し、教育システムを完全に変革するものである。

これは、教育のあり方を根本的にリセットすることに他ならない。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育とは?

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、教育システムのあらゆる部分（政策から教授法、コミュニティへの関与まで）を活用し、ジェンダー間の力関係 に挑戦し、ジェンダー規範や男女二元論を再考し、不平等の根本原因や抑圧システムに関する批判的な意識を高めることによって、固定観念、態度、規範、慣習を変革しようとするものである。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、単に女の子や女性の教育へのアクセスを改善するだけではなく、生徒、教師、コミュニティ、政策立案者などの関係者自身が、有害なジェンダー規範や、女の子や女性、その他のジェンダーの人よりも男の子や男性を優位にする力の不均衡について分析し、挑戦し、変革する力を身につけさせることを目的としている。

つまり、ジェンダーを変革するアプローチによって、教育システムは公平で、包括的で、害のないものになる。

このようなシステムでは、誰もが安全で、同じ土俵に立ち、男の子が女の子より優遇されることもなく、女の子が学校を中途退学して家庭で働くこともないのだ。また、男女以外のなジェンダー・アイデンティティを持つ 子どもやユースは差別されない。 子どもやユースは、臆せず に自由に規範に挑戦することができる。彼女・彼らは尊重され、お互いに違いや多様性を尊重する方法を学び、ジェンダー に関係なく、最高の教育成果を目指すことができる。ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、彼らの人生の選択肢と機会を広げ、健康、社会的・政治的参加、仕事の機会や雇用につなぐ。

学校だけでなく、政策、行政、データ収集、コミュニティなどのシステムに重点を置いている点に注目すべきである。このアプローチは、早期学習センター、学校、大学、オンライン教室、職業教育センターなど、

すべての教育レベルで、子どもやユースが学ぶあらゆる方法に取り組んでいる。また、妊娠のために中途退学したが、それでも学び続けたいと思う思春期の女の子など、限られた選択肢しか持ちえない疎外された子どもやユースのために、複数の柔軟な進路が用意されている。具体的な場が重要なのではなく、教育が重要なのだ。**ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、多様な子どもたちの真の可能性を引き出すことで、あらゆる文脈に適用される。**

しかし、教育現場はジェンダー・トランスフォーマティブ教育の重要な場であるが、教育現場 だけではジェンダー規範や力関係を転換することはできない。

差別や不平等を引き起こす社会構造に対処することは、認識を広げ、教室内にとどまらず、子どもたちが暮らすコミュニティにまで踏み込むことを意味する。ジェンダーは、個人や組織が再構築できる社会的な構成要素であり、そうすることができれば、変革の可能性を秘めている。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育に向けて、どのように前進していけばよいのだろうか

意図的に行動することによって

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育には、似たようなものも、口先だけの支持も、形式的なものもないのだ。ジェンダー・トランスフォーマティブ教育には、教育システムとコミュニティの両方において、ジェンダー役割と力関係の不平等に対して意図的に挑戦する戦略とプログラムが必要である。ジェンダーの不平等の複雑な原因を考えると、すべてのステークホルダーとあらゆるレベルで協働するマルチセクターのアプローチが最大の効果をもたらすと考えられる。私たちは、ジェンダーが原因で子どもやユースに影響を与えるものは何か、どのようにその影響に対して対処すればよいか、またどのような交差性が作用しているのかを問う必要がある。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育は、すべてのレベルでの一連の行動を通じて達成することができる。今すぐできる小規模な取り組みでも、対話と参加の場を開き、ジェンダーの力関係に取り組む機会を提供することができる。大切なのは、意思を持続させることである。以下のポイントは、ステークホルダーが追求すべき確固たるなアイデアと戦略である。

1. 政策と政治的関与の変革

権力構造を変革するためには、トップのリーダーシップが必要である。**政治的リーダー**（大臣、国会議員、公務員、政府首脳）は、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育へのコミットメントを行い、進捗に対する説明責任を果たす必要がある。これは、フォーマル、ノンフォーマル教育において、ジェンダー平等とインクルーシブ教育を第一の目的とした、**根拠に基づくアプローチと解決策への投資**を増やすことから始まる。指導者たちは、**教育セクターの計画、予算、政策の中心にジェンダー平等を据える**必要がある。これは、ジェンダーの視点に立った教育セクター計画（GRESP）アプローチから始めることができる。このアプローチには、最も疎外された子どもたちのために公教育予算を配分することや、国内で初等教育～中等教育までのジェンダー格差が最も大きく、女性教師の数が少なく、コミュニティにおけるジェンダーに基づく暴力が多く見られる地域に優先的に配分することなどが含まれる。最後に、ジェンダー規範のために疎外されている人々のために、教育システム全体で指導者が自身のリーダーシップを発揮する必要がある。

GRESP：一国の教育の青写真を変革する[18]

ジェンダーの視点に立った教育セクター計画（GRESP）は、国の教育セクター計画にジェンダー平等を埋め込むためのツールである。GRESPは、教育システムにおけるジェンダーの障壁を特定し、教室、教員教育、カリキュラムや教材開発、指導者や管理職などにおいて、それらに対処するための戦略や政策を導入するよう、教育省とパートナーを指導している。現在まで、UNGEIとANCEFA、AU/CIEFFA、FAWE、教育のためのグローバル・パートナーシップ・フォー・エデケーション（GPE）、IIEP-UNESCO、プラン,ユニセフなどのパートナーは、アフリカとアジアの28カ国で教育関係者のための国・地域GRESPワークショップを開催してきた。参加者は、GRESPがどのように適用され、計画の一つ一つの段階で国のシステムを変革していくのかを学ぶ。

2. 教授法を変える

教師は教育システムの要であり、教育者としての彼らの役割は、まさに子どもたちの変革の担い手であり、模範となるものである。 教師にこのような役割を最大限に発揮してもらうために、学校には以下が必要である:

- **教育実践においてジェンダー平等を積極的に推進する**方法についての教員研修。教師は、自身のジェンダーバイアスを検証でき、**教室でのジェンダー不平等** を特定し、それに**挑戦**できるようにならなければならない。教師たちは、社会に広く浸透した差別を反映した学習環境を甘受するのではなく、差別に挑戦する環境を醸成することができるのだ。

- ジェンダー・トランスフォーマティブ教育に対応するモジュールや教育・学習教材を含む**カリキュラムの改革**。

- **教師同士の相互学習**と経験を共有する交流を通じて、ジェンダー・トランスフォーマティブな授業の実践を深める努力を促す。

アフリカ女性教育学者フォーラム、ユニセフ、ユネスコ、国連女子教育イニシアティブ：ジェンダー対応教授法（GRP）[19]

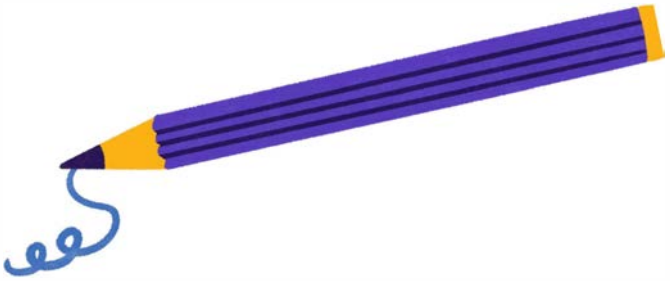
このツールキットは、教員をはじめ、学生と関わるすべての実務者を対象としている。GRPモデルは、教師がジェンダーをより意識し、すべてのジェンダーの具体的な学習ニーズを理解し、それに対応するスキルを身につけるためのトレーニングである。また、教室やより広い学校のコミュニティにおいて、女の子と男の子が平等に扱われ、参加できるような教育方法を開発するものでもある。また、研究者、学校と保護者の委員会や運営組織、市民社会組織、コミュニティのリーダー、教育政策立案者にとっても有用な資料となっている。

ネパール: 教科書のジェンダー教材への挑戦[20]

1999年の教科書のジェンダー表現を見直したのを契機に、ネパール政府は変更プロセスを開始した。まず、ジェンダーの視点に立った教材を作成し、作成要綱を　導入し、教科書での男女の描写を類似の表現とすることを義務付けた。校長(headmaster)、会長(chairman)、営業マン(salesman)といったジェンダーバイアス用語は、校長(principal)、会長(chairperson)、営業(salesperson)といった言葉に置き換えられた。2007年の政策では、実施状況を監視するために、5年ごとに教材を見直し、10年ごとに改訂を行うプロセスを設定した。

ウガンダ：ティーチャーズ・アクション・フォー・ガールズ（TAG）、ウガンダ全国教職員組合[21]

TAGの現職教員向け集中ワークショップでは、女の子たちの学校での経験を改善するための知識、理解、スキル、リソースを教員に提供し、教員は固定観念や自らの偏見にうまく対応することができるようにする。TAGアプローチにより、学校における女の子の安全と機会均等は、教師の専門的な責任として扱われる。ワークショップの最後には、参加者が中心となって行進や集会を行い、コミュニティ の意識を高めている。一部の地区では、女の子の安全性が高まり、学校生活がより肯定的なも のになったと報告されており、学校からは女の子の就学率が上昇したと報告されている。



3. 学校環境の変革

ホールスクールアプローチを取り入れ、最終的には、あらゆるジェンダーの子どもやユースが、学校でもオンラインでも、安心して学習できる環境を整える必要がある。そのために必要なことは、以下の通りである。

- 学校全体が、ジェンダー・アイデンティティ、ジェンダー表現、性的指向にかかわらず、すべての生徒にとって**安全な空間**となるようなアプローチを採用すること。また、学校の規則や教師の職業上の行動規範に、学校や通学時に起こるジェンダーに基づく暴力を防止するための措置を盛り込む必要がある。例えば、学校の制服（子どもたちが 自分のアイデンィティに合うと思う制服を許可されること）や、学校の役割や規律がジェンダーによって決められていることなど、ジェンダーに基づく規則や慣習を特定し、修正することも含むべきである。
- 教育と**ジェンダーの視点に立った保健・保護サービス**との関連付け。教育に対する複雑なジェンダーの障壁に取り組むには、水、衛生、子ども、社会的保護、ジェンダーに基づく暴力、包摂的なセクシュアリティ教育、性と生殖に関する健康と権利など、セクターを超えて協調した投資と介入を行う必要がある。

女性、障害者、LGBTQI、少数民族や人種などの**マイノリティグループの教師**などの幅広い世界観をもつ教師から学ぶことは、子どもやユースに多様性を目の当たりにすることを意味する。教師は子どもやユースにとってロールモデルとなる。

ジンバブエ：SRGBV(学校や通学時に起こるジェンダーに基づく暴力）防止パイロット - ホールスクールアプローチ[22]

(アフリカ女性教育者フォーラム、ミスク・ウィット・アンド・アソシエイツ・インターナショナル、UNGEI）。この試験的な取り組みでは、暴力をめぐる性別に関係する信念、態度、慣習を特定し、それに対処することに重点が置かれた。最低基準の統合結果は、ジンバブエの教育セクター分析で共有され、ジンバブエの学校における、学校や通学時に起こるジェンダーに基づく暴力の情報は教育セクターに通知され 、教育セクターは対応法を学校に通知する。

アルゼンチン：妊娠中／子育て中のユースのための教室[23]

アルゼンチンでは、2人に1人のユースが中学校を卒業できない理由のひとつに、自身が親になることや弟妹の世話をすることが挙げられている。その対処策として、州政府は、中学校に「マタニティ・ルーム」を開設し、利用する生徒が勉学を修了できるようにしている。訓練を受けた教師とともに、対象の生徒はカリキュラムに沿って学習し、幼児期、セクシュアリティ、ジェンダー規範に関する問題を話し合うための資料や場所を利用することもできる。生後45日から2歳までの子どもたちは、マタニティ・ルームで幼児教育のセッションに参加している。これは、女の子にとって障壁に取り組むと同時に、子どもたちの成長を促し、不平等の連鎖を断ち切ることにつながる。

シエラレオネ 早過ぎる結婚をなくすための世界プログラム(UNFPAとユニセフ)[24]

この多部門プログラムは、早過ぎる結婚を防止し、女の子やユース女性の能力を高めるための多くの戦略や介入策を取り入れている。このプログラムでは、必要不可欠なコミュニティ　とのコミュニケーションに加え、思春期の子どもたち　を、性と生殖に関する健康、ライフ・スキル、金融リテラシー、生計手段などのスキルを身につける力を与えている。2019年、シエラレオネは、包括的性教育　を国家カリキュラムに組み込んだ、総合的な性教育の実施に向けたロードマップを策定した。

4. 子どもとユースの参加に変化をもたらす

地方自治体やコミュニティでの意思決定に子どもやユースを参加させ、政策決定レベルへの参加を確保することで、子どもやユースの声に耳を傾けるべきである。例えば、人身取引や女性器切除についてだ。子どもやユースは、ジェンダーの不平等や暴力・搾取行為 が起こったときに、それに立ち向かうための**スキルと自信を身につける機会を必要**としている。 これは、女の子やユース女性の職業訓練の機会を創出の拡大につながり、彼女たちの経済への積極的な参加をもたらし、経済的搾取を防ぐことができるのだ。一方、男の子やユース男性には、男らしさを表現するために女の子や女性を抑圧することに依存せずに、ジェンダー平等促進の恩恵を受けるためにはどのように対等な役割を果たすことができるかを学ぶ機会を含む。また、ジェンダー規範によって疎外されている子どもやユースの声を聞く機会が非常に限られているため、専用のアウトリーチや参加オプション を設ける必要がある。 このような変化には、家庭やコミュニティでのサポート体制が必要となる。

ネパールのルパンタラン

ルパンタランとは、ネパール語で「変身」を意味する。このプログラムは、女の子たちが自分の声を見つけ、主体性を発揮できるよう支援するものである。そして、トレーニングの核となるのは、思春期の女の子を対象とした社会的・経済的スキルだ。9ヶ月のコース終了時には、参加者は教育に対してより自信を持ち、十分な情報を得たと感じ、教育に関して楽しみを得るようになったと報告している。このプログラムが大人版によってサポートされていることが重要な点であり、女の子の教育に対する保護者や養育者の考え方を変えることを促し、思春期の女の子にとって安全で保護的、かつ実現可能な環境作りを可能にする。プログラムの進捗に合わせて調整できるよう、ウェブベースの報告システムを開発中である。

チャンピオンズ・オブ・チェンジ[25]

女の子の権利とジェンダー平等に関するチャンピオンズ・オブ・チェンジ (注:男の子や女の子が協力してジェンダー平等を推進し、ジェンダーに基づく不平等や差別に変化をもたらすことを目的とした取り組み)へのユースの参加とユースによるユースへの働きかけ(仲間同士の学び合い)を通じて、ジェンダーの平等と社会規範の変革を促進する。プランが開発したチャンピオンズ・オブ・チェンジには、思春期に適した活動が盛り込まれており、女の子と男の子がそれぞれ別々に、しかし相互に関連したカリキュラムを通じて、知識、態度、技能を身につけるよう促している。女の子たちのモジュールは、エンパワーメント、自尊心、権利に対する意識 に焦点をあてている。男の子たちのモジュールは、支配的で有害かつ制限的な男らしさについて考え 、男の子がいかにして女の子の権利やあらゆる人々のジェンダー公正を支えることができるかに焦点を当てている。このプログラムは現在41カ国で活動している。

5. コミュニティリーダーシップの変革

学校は変革のための重要な場だが、子どもたちは学校が終わったら 家に帰り、家庭や村の人々からも学ぶ。真の変革を起こすためには、コミュニティが責任 を持ち、有害で差別的なジェンダー規範や固定観念に挑戦し、変革するプロセスを、進めていく必要がある。草の根組織、特に女の子や女性の権利を守る組織は、多くの場合、現行の制限的な規範や慣行に関する知識と理解を持っている。そのような組織 は、社会・行動変革コミュニケーションツールや資源で、保護者や伝統的・宗教的指導者、学校運営委員会、保護者会などのコミュニティベースの組織を巻き込むための支援を受ける必要がある。これらのコミュニティ機関はすべて、有害で差別的なジェンダー規範に対して批判的な姿勢を子どもたちに社会的に示す上で重要な役割を担っている。 これは生涯を通じた「ジェンダー・トランスフォーマティブ教育」の一環である。

インド Sweekar - 虹の親たち

2017年、LGBTQIの子どもを持つ親の中には、子どもの多様なアイデンティティを受け入れるために支援団体を結成した人もいた。そのような団体の一つにSweekarがある。やがてこのグループは、インド在住の他の保護者たちやディアスポラで、家族が子どものアイデンティティを受け入れることに悩む他の親たちを支援するための非公式なワークショップを開始した。Sweekarは、メディアや映画祭、アクセプタンスミーティングなどのコミュニティイベントを通じて、家庭や学校などにおける、LGBTQIの子どもたちへの偏見を払拭する活動を拡大している。コミュニティに真の意味で溶け込むための重要な第一歩として、Sweekarは、親たちが自分たちのコミュニティで子どもの多様なアイデンティティを受け入れたストーリーを共有することを支援している。

6. ステークホルダーエンゲージメントの変革

政府、市民社会、草の根のユースや女性の運動、民間セクター間、また政府内では省庁を超えた制度 的なパートナーシップを強化すること。**構造的な変化**、特に制度的 なレベルでは、ジェンダーによる排除につながるプロセスを見直し、改革するために大胆なパートナーシップが必要である。ジェンダー差別に対処するために、子どもとユースのためのメンターやロールモデルプログラムを含めた、**教育と労働市場**の入口を結びつけるための行動をとる必要がある。 学校から職場への移行プロセスを支援する以外にも、子どもたちやユースに、ジェンダーの固定観念にとらわれない仕事の選択肢を示した りするといったものだ。

ナイジェリア: キンドル・アフリカ・エンパワーメント・イニシアティブ

ラゴス・ラグーンに面した都市のスラム街マココでは、男の子たちがボートを運転してお金を稼いでいる。しかし、女の子はラグーンでの小商いで家族を助けるのが精一杯のことが多い。女の子たちは早期妊娠したり、早過ぎる結婚をしたりして、貧困と無力化の連鎖を永続させている。2016年、キンドル・アフリカは伝統的指導者、宗教指導者、コミュニティボランティアを募集し、行動変容テクニックのトレーニングを実施した。そして、参加者が女子教育の必要性を家族に話したり、女の子に職業技能訓練を受けるよう奨励できるようにした。これにより、女の子はテキスタイルデザインから靴作り、ヘアメイクまで幅広い技術に触れ、雇用の機会を得ることができるのだ 。

ザンビア・ガールズ2030[26]

ザンビア・ガールズ2030は、同国のビジョン2030にちなんで名づけられたもので、弱い立場の女の子が小学校から中学校へ、そして中学校から進学や就職へと進んでいけるよう支援している。その内容は、性と生殖に関する健康、金融リテラシー、キャリアガイダンスなどを扱う学校のキャリア・スキル・クラブ（5年生～12年生）、ロールモデルと一緒に働く女の子のための地区のキャリア・スキル・キャンプ（8年生と9年生）、学校の休暇中に2週間の職場体験で働く女の子のためのインターンシップ・プログラム（10年生～12年生）などだ。2021年初頭、このプログラムは150校で行われ、5,560人の女の子が学校のクラブに参加、256人がキャリアキャンプに参加、50人がインターンシップの機会を得た。このプログラムは、一般教育省がユニセフ、レストレス・ディベロップメントと共同で運営している。

7. エビデンスのつくり方を変革する

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育の戦略と活動のパッケージは、ジェンダー役割と規範、そして現地の文脈での力関係に対する深い理解によってもたらされなければならない。このプロセスには以下が必要である。

- **ジェンダー・トランスフォーマティブ教育事業の監査**
  何が効果的で何が効果的でないか、そして実行可能な戦略や介入パッケージをどのように拡大していくかを理解するために、監査を行う。そして、このエビデンスをもとに、持続的な投資を呼びかけることができる。

- **進捗状況の捉え方、測り方の変化**
  それらを確認するためには、学習成果の評価や現在のジェンダー平等の尺度ではなく、学校やコミュニティにおけるジェンダー規範や態度の変化を測定することが必要になる。例えば、識字率の報告だけでなく、女の子個人の行動力の変化をモニタリングしたり、ジェンダーに基づく暴力の許容度に関するコミュニティの認識を追跡調査したりすることが挙げられる。

- **教育システム内の指導者は、ジェンダー分析を適用し、**
  ジェンダーの不平等とそれが教育システムにおいてどのように現れるかを理解し、解明するための能力を身につけなければならない。

コンゴ民主共和国: エビデンスで政策決定者に働きかける

2020年のユニセフの調査では、12～18歳の学生の10人中7人が、学校やインターネット上で言葉や心理的な暴力に遭っていることが判明した。そのうち10人中4人が身体的暴力を受け、10人中3人が性暴力を受けた。政府はこの調査をもとに、学校におけるジェンダーに基づく暴力を含む、暴力に対処するためのロードマップを作成した。さらに、政府はユニセフとUNFPAの支援を受け、主要省庁によるマルチセクター技術委員会を設立し、実施状況の調整と監視を行っている。その手始めとして、政府部門は、指定された16日間にわたる学校での予防キャンペーンの企画をした。

ジェンダー平等の測定方法の変更[27]

教育におけるジェンダー平等のための説明責任、という団体は、国内および国際レベルで使用するために、数の平等を超えて、教育において、また教育を通じて、より広くジェンダー平等を測定しようとする指標の枠組みを開発するために活動している。

アクションは即刻取るべき

ジェンダー平等を達成し、社会の公正さを高めるために、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育の変革力を活用することは、かつてないほど緊急の課題となっている。世界的なパンデミックからより良い社会を構築するためには、すべての子どもたちや若者の才能を最大限に引き出し、誰一人取り残さないようにすることが必要だ。より良い社会を作り直すということは、社会を平等に作り直すということになる。

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育の実施は、段階的かつ複雑な道のりであり、今すぐにでも始める必要がある。すべての人がチェンジメーカーであり、すべての関係者は、本書やその他のリソースを用いて、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育の旅を始めることを約束する必要がある。 政府、コミュニティ、学校、寄付者、その他のパートナーは、変化を約束し、すべての子どもとユースの生活を積極的に変革することを約束することから始めなければならない。

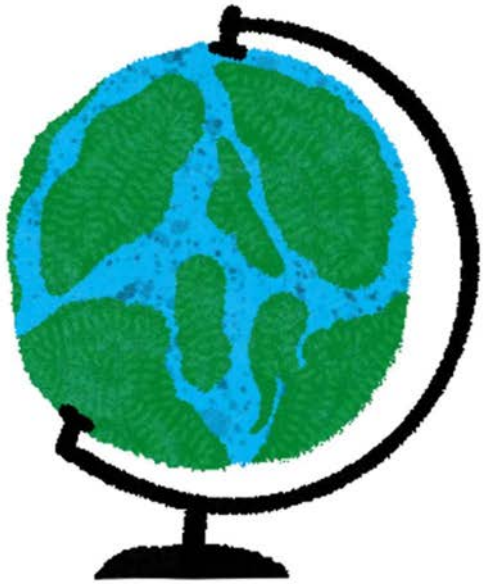
私たちは共に、障壁を取り除き、有害な規範を解体し、力関係や抑圧のシステムに挑戦し、平等、尊重、包摂に基づく規範を構築しなければならない。

より公正で包括的な世界のために教育を再構築し、ジェンダー・トランスフォーマティブをもたらす意思を表明してください。

Endnotes

i Youth consultations on Gender Transformative Education, 23 and 24 August 2021

1. https://www.unfpa.org/resources/frequently-asked-questions-about-gender-equality
2. https://www.unfpa.org/resources/frequently-asked-questions-about-gender-equality
3. Plan International, 'Strengthening our work on sexual orientation and gender identity', Programme Guidance, Version 1.0, February 2017
4. Plan International, Glossary of gender inclusion terminology and definitions,
5. Plan International (2016) Gender Transformative Advocacy. In Girls Champions of Change: Curriculum for Gender Equality and Girls Rights. Woking, UK: Plan International.
6. UNESCO. 2020. Global Education Monitoring Report – Gender Report: A new generation: 25 years of efforts for gender equality in education. Paris, UNESCO. Retrieved at: https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374514/PDF/374514eng.pdf.
7. https://www.educ.cam.ac.uk/centres/real/downloads/Platform%20for%20Girls/REAL%2012%20Years%20of%20Quality%20Education%20for%20All%20Girls%20FULL%2084pp.pdf
8. Kwauk, C., Cooke, J., Hara, E., & Pegram, J. (2019). Girls' education in climate strategies: Opportunities for improved policy and enhanced action in nationally determined contributions (Global economy and development working paper 133). Brookings. https://www.brookings.edu/research/girls-education-in-climate-strategies/
9. World Vision International. (2020). COVID-19 aftershocks: Access denied. Teenage pregnancy threatens to block a million girls across sub-Saharan Africa from returning to school. https://www.wvi.org/sites/default/files/2020-08/ Covid19%20Aftershocks_Access%20Denied_small.pdf
10. Inter-agency Network for Education in Emergencies (INEE). (2021). Mind the gap: The state of girls' education in crisis and conflict. New York, NY. https://inee.org/resources/mind-gap- state-girls-education-crisis-and-conflict, page 37
11. UNESCO, Global Education Monitoring Report, Policy Paper 35. April 2018, ED/GEM/MRT/2018/PP/35/Rev1, https://www.ungei.org/sites/default/files/Achieving-gender-equality-in-education-dont-forget-the-boys-2018-eng.pdf
12. Dunne, Máiréad, 'Gender, sexuality and schooling: Everyday life in junior secondary schools in Botswana and Ghana', International Journal of Educational Development 27 (2007) 499–511, page 500.
13. UNFPA and UNICEF, 'Leaving No One Behind: Technical Note Of The Global Programme To End Child Marriage', UNFPA, UNICEF, October 2020.
14. Youth consultation on Gender Transformative Education, 24 August 2021
15. One Campaign, 'Poverty is Sexist: Why educating every girl is good for everyone,' The One Campaign, London, 2017, https://www.one.org/international/policy/poverty-is-sexist-why-educating-every-girl-is-good-for-everyone/
16. McKinsey Global Institute, 'The Power of Parity: How Advancing Women's Equality can add $12 Trillion To Global Growth', September 2015, https://www.mckinsey.com/~/media/mckinsey/featured%20insights/employment%20and%20growth/how%20advancing%20womens%20equality%20can%20add%2012%20trillion%20to%20global%20growth/mgi%20power%20of%20parity_full%20report_september%202015.pdf
17. Haberland, Nicole, A., 'The Case for Addressing Gender and Power in Sexuality and HIV Education: A Comprehensive Review of Evaluation Studies', International Perspectives on Sexual and Reproductive Health, Volume 41, Issue 1, pages 31-42, March 2015, Guttmacher Institute, https://www.guttmacher.org/sites/default/files/article_files/4103115_0.pdf
18. Gender-responsive education sector planning (GRESP) https://www.ungei.org/what-we-do/gender-responsive-education-systems
19. Gender Responsive Pedagogy (GRP) https://www.unicef.org/esa/reports/gender-responsive-pedagogy
20. Nepal: Challenging Gendered Material In Textbooks https://gemreportunesco.wpcomstaging.com/2021/03/10/countries-are-still-falling-short-of-developing-textbooks-free-of-gender-stereotypes/
21. Uganda: Teachers' Action for Girls https://www.ungei.org/publication/teachers-action-girls
22. Zimbabwe: SRGBV Prevention Pilot https://www.ungei.org/publication/srgbv-prevention-pilot-project-zimbabwe-whole-school-approach-2018-2020
23. Argentina: Classrooms for Pregnant/Parenting Adolescents https://www.unicef.org/argentina/que-hace-unicef/educación/salas-maternales-en-escuelas-secundarias
24. Global Programme To End Child Marriage https://www.unicef.org/media/88841/file/Child-marriage-Sierra-Leone-profile-2019.pdf
25. Champions for Change https://plan-international.org/youth-activism/champions-change
26. Zambia Girls 2030 https://www.unicef.org/zambia/stories/zambian-girls-2030-internships-personal-story; https:/restlessdevelopment.org/projects/zambian-girls-2030/
27. Accountability for Gender Equality in Education (AGEE) https://www.gendereddata.org/about/



Published by UNICEF
Education Section
Programme Division
3 United Nations Plaza
New York, NY 10017

www.unicef.org/education

© United Nations Children's Fund (UNICEF)

ISBN: 978-92-806-5320-5

December 2021